

## 2022年度 流域圏担い手づくり事例集について

'22.11.25 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子

## 【これまでの事例集づくりについて】

- ・ 中山間地の活性化を進め、過疎化や少子高齢化問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行い、2013～2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017～2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・ 2017～19年度には1年に1回、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。
- ・ 2019～20年度は事例集づくりを休止し、流域圏懇談会10年誌を作成。
- ・ 2021年度には、学童保育木造化プロジェクトを取材対象とし、都市を巻き込んだ流域圏づくりを支える複数の方を取材してその立体像を描く事例集を作成した。

## 事例集のあゆみ

発行年度	タイトル	調査団体数	備考
2013(H25)年度	山村再生担い手づくり事例集	21団体(山:21)	
2014(H26)年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅱ	21団体 (山:17、川:2、海:2)	川・海の活動団体を取材先に加える
2015(H27)年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅲ	22団体 (山:18、川:2、海:2)	
2016(H28)年度	山村再生担い手づくり事例集 その後いかがお過ごしですか？ プロジェクト	17団体(山:17)	2013年度の取材先を再取材
2017(H29)年度	流域圏担い手づくり事例集	19団体 (山:12、川:6、海:1)	山村再生担い手づくり事例集交流会開催 (於・根羽村、2017.4.15) 冊子名を流域圏担い手づくり事例集に移行
2018(H30)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅱ	19団体 (山:11、川:7、海:1)	流域圏担い手づくり事例集交流会2018開催 (於・佐久島、2018.4.14)
2019(R1)年度	(流域圏懇談会10年誌作成・ 担い手づくり事例集の振り返り)	—	流域圏担い手づくり事例集交流会2019開催 (於・岡崎市、2019.6.22)
2020(R2)年度			
2021(R3)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅲ	1プロジェクト (個人:6、施設:3)	取材対象:学童保育木造化プロジェクト

## 【2022年度の実例集案】

- ・ 2021年度と同様、都市を巻き込んだ流域圏づくりにつながるプロジェクトを取材対象とする。  
取材対象：「都市の木質化プロジェクト」

## 森林と都市のまちづくりがつながる

名古屋市の長者町と呼ばれる錦二丁目では、2011年からまちづくりの一環として「都市の木質化」に取り組んでいる。主体となっているのは、「錦二丁目まちづくり協議会」。名古屋大学の「都市の木質化プロジェクト」と連携し、行政、豊田森林組合や旭木の駅プロジェクト（豊田市旭地区）など木材供給者ともつながって、ウッドデッキを設置するなど街の木質化を進めている。

活動は、実際の木質化だけにとどまらず、年に一度の「長者町糸びす祭り」では、薪割り体験や木を使ったワークショップを実施。協議会メンバーが旭地区に行き、森の健康診断や山菜摘みツアーに参加するなど、木と親しみ、中山間地との交流を進めている。

2020年3月22日、長者町のストリートウッドデッキが更新され、3代目が完成！  
都市の環境で自然乾燥された2代目ウッドデッキは表面を削って生まれ変わり二次利用される（都市の木質化 project Facebook より）



協議会メンバーが参加して行われた「森の健康診断」  
（豊田市旭地区）

（矢作川流域圏懇談会10年誌p134より転載）

## ・構成案

1. 都市の木質化プロジェクトものがたり
2. 都市の木質化プロジェクト × 旭木の駅プロジェクト  
錦二丁目で生まれ変わった旭の木々  
錦二丁目と旭の現地交流
3. プロジェクトに関わってきたさまざまな人びと
4. おわりに

・取材対象者案

	取材対象者案	備考
都市の木質化プロジェクト		
1	高野雅夫（名古屋大学大学院環境学研究科）	名大グローバルCOEで錦二丁目をフィールドに
2	佐々木康寿（名古屋大学大学院生命農学研究科）	〃
3	山崎真理子（名古屋大学大学院生命農学研究科）	〃
4	鍋田拓哉（愛知県林務課）	愛知県
5	名畑恵（錦二丁目エリアマネジメント）	錦二丁目 滞在空間の創出・費用を公共空間で稼ぐ
6	大橋俊夫（再生空間）	〃 キッズコーナーやベンチのデザイン
7	舟橋浩三（東海足袋）	〃 都市の木質化会長
8	滝一之（滝一）	〃 都市の木質化元会長
9	浅井一家	〃 都市の木質化を子どもと進める
旭木の駅プロジェクト		
10	山田政和（豊田森林組合）	山元
11	高山治郎（旭木の駅プロジェクト）	〃
12	戸田友介（旭木の駅プロジェクト）	〃
13	西川早人（旭木の駅プロジェクト）	〃

・スケジュール案

2022年 12月 取材対象者の確定

取材者 × 取材対象者のマッチング

2023年 1月 取材

2月 レポート作成

編集会議

3月 レポート完成